

全国の皆さまからの温かい応援とご支援 ありがとうございます。

Our deep thanks to everyone who has provided support and assistance, from all over the world.

令和6年1月1日の能登半島地震。令和6年9月の奥能登豪雨。

能登は1年に2度の激甚災害に見舞われました。どうして能登ばかり…。

そんな中、全国の皆さまからの温かい応援とご支援が、

復旧・復興をめざし歩む被災された方々を勇気づけ、大きな支えになっています。

能登のために、ありがとうございます。

そして、これからもさまざまなかたちで応援をおねがいします。



能登半島地震・奥能登豪雨の 風化防止に向けた動画を公開中

石川県公式ウェブサイト
「能登の一步、未来への一步」

<https://notonotameni-ishikawa.jp/>



被害状況、復興へのあゆみ、被災箇所の 3Dモデル、被災者等の証言を公開中

石川県公式ウェブサイト
「令和6年能登半島地震アーカイブ
震災の記憶 復興の記録」

<https://noto-archive.pref.ishikawa.lg.jp/>



創造的復興に向けたプロジェクトや、 能登と全国をつなぐ様々な活動を 発信中

能登官民連携復興センターウェブサイト
<https://notorenpuiku.jp/>



シンポジウムの様子は、後日アーカイブにて配信します。

本日のシンポジウムの様子は、石川県公式YouTubeチャンネルで後日公開します。会場では伝えられなかった声を、全国にお届けします

石川県公式YouTubeチャンネルで
アーカイブ配信

<https://www.youtube.com/channel/UCH8nNfcRRKJV76TCT6S0qmg>



令和6年能登半島地震・奥能登豪雨 復興祈念シンポジウム

NOTO in大阪

2026

とき 2026 8/7 金

●開場／12:30～
●開演／13:30～
(16:00終了予定)

ところ グランフロント大阪
[ナレッジシアター]
大阪府大阪市北区大深町3-1北館4階



主催／石川県



ゲスト
常盤 貴子



「伝える」から 「つながる」へ。 能登の復興と これから

甚大な被害をもたらした能登半島地震から2年7か月が経ち、奥能登豪雨から2年が経過しようとしています。能登はいま、人口減少や高齢化といった防災前からの課題を踏まえ、関係人口の拡大や産学官が連携した取組など、未来を見据えたよりよい復興＝「創造的復興」を成し遂げるために、確実に歩みを進めています。

本シンポジウムでは、これまで全国から寄せられたご支援へ感謝を伝えるとともに、様々な立場から能登の復興に関わる方々をゲストに迎え、能登のいまの姿を「伝える」ことで、能登のこれからへと「つながる」機会となることを目指します。

展示

大手通信キャリア3社 (KDDI, docomo, SoftBank) による
復興に向けたデジタル技術の紹介

「能登で進む復興プロジェクトと、新しい関わり方」
能登官民連携復興センター紹介ブース

復旧・復興の歩みを伝えるパネル展示

など

PROGRAM

司会 MROアナウンサー 石川 映夏

第1部

13:25～ オープニング映像

13:30～ 開会
主催者挨拶 石川県知事 山野 之義

13:35～ 基調報告 石川県知事 山野 之義

13:50～ 能登の高校生によるスピーチ
石川県立輪島高等学校 3年 小住 優太
「私たちができること」
石川県立穴水高等学校 2年 土田 望央
「能登をリポートするのは、私たち。」

14:05～ トークイベント コーディネーター 河田 直也
俳優 常盤 貴子 石川県知事 山野 之義

第2部

14:45～ パネルディスカッション
コーディネーター 河田 直也

珠州市長 泉谷 満寿裕
輪島塗復興協議会 理事
ヌシヤ(株) 代表取締役
浦出 真由

和倉温泉観光協会 会長
(株)わくらす 代表取締役
奥田 一博
大阪公立大学大学院
文学研究科准教授
菅野 拓

NPO法人阪神淡路大震災
1.17希望の灯り 理事長
藤本 真一
俳優
常盤 貴子

16:00 閉会

知事基調報告

能登半島地震・奥能登豪雨からの
創造的復興について報告します。

能登の高校生によるスピーチ

能登の高校生が感じ、想っていることや、
地域の未来について発表します。

トークイベント

常盤貴子さんの能登での支援の取
組や、一人ひとりができる能登への
支援などについて、常盤さんと山野
知事の対談をお届けします。

俳優
常盤 貴子



石川県知事
山野 之義

パネルディスカッション

復興の最前線で活躍する能登関係者や復興の専門家など、多様なメンバーが能登のいまとこれからの語り合います。
能登と「つながる」ヒントとなるはずです。



珠州市長
泉谷 満寿裕

1964年石川県珠州市生。早稲田大学政治
経済学部卒業。青年会議所やNPOを通し、
地域おこし活動に傾注し、2006年の珠州市
長選挙に初当選。少子高齢化・人口減少が
著しく進む中、移住・定住の促進に向けて、
地域のあらゆる資源を活かし市民と行政がと
もに取り組む「地域経営」を推進。2017年か
ら3回にわたり「奥能登国際芸術祭」を開催。



和倉温泉観光協会 会長
(株)わくらす 代表取締役

奥田 一博

石川県七尾市出身。大学卒業後、横浜市で
会社経営を経て、2017年に老舗旅館「和倉
温泉奥田屋」の代表に就任。能登半島地震
以降は、地域一体となった復興活動に参加。
まちづくり会社「わくらす」を設立し温泉街の未
来を見据えたまちづくりと復興に尽力している。



NPO法人阪神淡路大震災
1.17希望の灯り 理事長

藤本 真一

兵庫県神戸市出身。1995年の阪神淡路大震災を経
験し、震災の記憶を継承する活動に携わる。NPO法人
阪神淡路大震災1.17希望の灯り 代表理事、1.17の
つどい実行委員長。令和6年能登半島地震では発生
直後から大学生ら若者とともに被災地支援に取り組
み、能登キリコ祭りへの学生ボランティアバス派遣や
「希望の灯り」モニュメント設置支援につなげた。



輪島塗復興協議会 理事
ヌシヤ(株) 代表取締役
浦出 真由

石川県輪島市出身・在住。短大進学で上京し、都
内での商品開発やバイヤーを経て、2023年夏に
リターンし、起業。自社では輪島塗の技術を活かし
た「身につける伝統工芸」をコンセプトとした漆の
アクセサリを展開。父は漆芸家。震災後は輪島
塗復興協議会の理事として課題解決や人材確
保など未来に向けての取り組みを行っている。



大阪公立大学大学院
文学研究科准教授

菅野 拓

大阪府出身。博士(文学)。臨床の社会科学
者。社会問題など「やっかいな問題」の解決を
テーマに現場で研究・実践。内閣官房「防災
庁設置準備アドバイザー会議」専門委員、石
川県「令和6年能登半島地震復旧・復興ア
ドバイザリーボード」委員などを務め、能登半
島地震では石川県知事特命アドバイザーと
して県へ支援実施。



俳優
常盤 貴子

神奈川県出身。2015年放送のNHK連続
テレビ小説「まれ」の撮影をきっかけに能登
へ訪れる。震災・豪雨後は炊き出しや泥かき
のボランティア、「一人一花運動 in 能登半
島」ではアンバサダーを務め、NHK夜ドラ「ラ
ジオスター」への出演など能登との繋がりを
大切にし、継続的な支援を行っている。